

令和7年度 第2回我孫子市商業観光まちづくり委員会（全体会）
会議概要

1. 会議名称	令和7年度 第2回我孫子市商業観光まちづくり委員会（全体会）
2. 開催日時	令和7年5月29日（木）15:00～17:00
3. 開催場所	我孫子市役所 庁舎分館 大会議室
4. 出席者	<委員> 依田委員長、池松委員、中澤委員、梶委員、上村委員、 館野委員、吉崎委員、谷口委員、山根委員、熊本委員、 森住委員、嶋田委員、辻委員 <欠席者> 松島委員、中井委員 <事務局> 商業観光課 秋田課長、迫田課長補佐、大阿久係長、 長沼、小林
5. 議題	第1号 令和6年度の事業実績について 第2号 令和7年度の事業予定について
6. 配布資料	資料1 令和6年度の事業計画 資料2 分科会会議報告書 資料3 令和7年度の事業予定 資料4 白樺芸術祭趣意書
7. 公開・非公開	公開
8. 傍聴人	1人（発言者1名）

1 令和6年度の事業実績について

事務局から令和6年度の事業実績について説明を行った。

（委員）

LUUP アプリの不具合が多く使いにくい。実際に利用者が不具合を経験すると敬遠される恐れがあるため、原因調査を依頼したい。また、手賀沼の周遊利用状況を曜日や時間帯に分けて詳細に分析する必要がある。

（事務局）

アプリの不具合は LUUP に動作検証を依頼する。今回は報告していないが、曜日や時間帯の分析は簡単に行える。平日売上は 2,000～3,000 円、土日では 7,000

～8,000円、時には10,000円を超える日もある。朝や日中、深夜にも利用されているが、土日の利用が多いことから観光振興の狙いは果たせていると考えている。

(委員)

自転車の配置に偏りが見られる。コストも考慮し、自然にリバランスする方法を検討いただきたい。

(事務局)

都内では偏ったポートの割引セールが行われることがあるが、我孫子はポートは少なく効果が見込めない。利用が増えて車両が頻繁に行き来するようになれば軽減するので、利用促進に取り組む。ポートを増設したいが、公有地は余地が少なく難航している。

(委員)

実績報告書には、レンタサイクルは利用者数と歳入、スマートサイクルはライド数や客単価が載っている。しかし、市の事業は収入向上だけを目指すべきではない。地域振興やシビックプライド向上こそが本来目指すべき姿で、そのことを考慮したKPIが必要ではないか。

(事務局)

経済振興としては入込客数や観光消費額が、シビックプライドとしては居住継続意向や他者推奨意向が重要である。しかし、それらを直接測定するのは困難なので、スマートサイクルに乗れば観光消費が増えシビックプライドも高まるはずであるとの仮定のもと、ライド数や客単価等をKPIに据えているところである。また、事業を維持拡大するには採算も重要である。いただいた意見も踏まえ、今後も継続的に考えていきたい。

(委員)

LUUPの私有地借用について、基準が示されれば候補地探しに協力したい。

(事務局)

後日お示ししたい。簡単にいえば1枠が長さ150センチ、幅50センチで、最低2枠分の土地があれば設置可能である。

(委員)

DMOについて、DMOの機能を備えたアビシルベの運営は中間形態だと思うが、商業観光課として最終的にDMOの設立を目指しているのか。DMOの機能が必要なのか、法人が必要なのか、いずれだと考えているか。

（事務局）

DMOが果たすべき機能が地域に必要という認識。現状で顕在化しているプレーヤーとしては、アビシルベが最もDMOに近い存在であると考えている。そこに足りない機能を追加すれば、実質的にDMOと同一の存在になれる。そこまでいけば、DMOの認証も受けられるであろうという考え方。機能か法人かでいえば、圧倒的に機能である。ただし、そこまでいけば、自ずと法人化もできるはずである。

（委員）

我孫子新田地区に温浴複合施設ができるが、観光の目玉になり得る良い機会である。施設ができるまでに、お土産になるふるさと産品を考えていきたい。

（事務局）

まだ活用事業者が決定したばかりで、具体的な構想を事業者が練っている所である。事業提案では、マルシェを作るとされているので、そこで地元の野菜やふるさと産品の販売ができるよう、今後協議していきたい。ふるさと産品の育成については、商工会からいろいろな事業をやると伺っているので、商工会と連携しながら、進めていく。

（委員）

ふるさと産品がふるさと納税と競合し、負けている現状がある。ふるさと産品の認定を受けていない商品がふるさと納税に入っている。ふるさと産品とは何なのか分かりにくくなっている。ふるさと産品には、商工会の会員でなければ認定が受けられないという問題もある。

（事務局）

企画政策課からも意見が寄せられている。指摘された点を踏まえながら、府内連携を図り、継続的に検討したい。

2 令和7年度の事業予定について

事務局から、令和7年度事業予定について説明を行った。

（委員）

市内在住アーティストの知名度が不足している。もっと積極的にアピールしてはどうか。我孫子に住んでいても芸術家の名前に触れる機会が少ない。白樺芸術祭で紹介してはどうか。

（事務局）

参考にしたい。市内アーティストは他にもいるようなので、連携が深められればよい。

（委員）

インフォメーションセンターの設置と管理について、今年度何か進めていくような具体案はあるのか。

（事務局）

指定管理者とは毎月打ち合わせを行い、DMOについても協議を進めている。地域の事業者の手賀沼に対する熱意はアンケート結果に反映されており、新しいアクティビティの開発や報告会の実施を検討している。

（委員）

DMOについて今年は具体的に何か成果となるものをやっていこうとしているのか、それとも引き続き手探しを続けるのか。

（事務局）

調査報告書ができたばかりなので、何をするかはこれからの議論である。報告会を開催するなどして、商業まちづくり委員の皆様のほか、興味のある事業者などにも現状を知っていただき、議論の取っ掛かりがつかめればと思っている。

（委員）

昨年、商業観光課と商工会が連携してDMOの勉強会を開催した。先進地視察や掘り下げた勉強会を検討しているのか。商業観光課はまちづくり委員会や商工会、DMOとの関係について計画があるのか。

（事務局）

先進地の視察と、勉強会の続きは考えている。商工会とも今後相談をしながら年度内に実施することを決めていきたい。

（委員）

JBFに関して、観光資源としては勝るものがないのではないか。商業的に活用していくイメージを持たないと観光資源を無駄にしている気がする。連携を取り、大きな題材の一つに入れていただきたい。

（事務局）

観光資源として活用を図るというよりは、いちスタッフとして運営に参加させられているのが現状である。観光資源や経済振興の観点から実行委員会に参加するようにしていきたい。

（委員）

JBFは北海道から沖縄までたくさんの方が来場している。海外からの来場もある。今年は25周年ということで、今までとは違う発信を検討している。お金と人材は限られているが、ちょっとした工夫でよくなる方法を探っている。

（委員）

事業予定にある庁内連携について、ただ出席するだけでなく商業的視点からの意見も求めたい。

（事務局）

淡白な表現をしているが、むろん出席するだけでなく活発に意見を出すようにしている。

（委員）

五本松運動公園で新たにグラウンドなどを整備中である。この場所は老若男女が集える可能性があり、観光や商業につながることを期待している。商業観光課として、どのように整備事業に関与するのか。

（事務局）

五本松運動公園は、文化・スポーツ課が、サッカー、ラグビー、陸上競技等を中心とした施設を整備する方針である。商業観光課としては、商業的及び観光的な観点から今後、連携していく必要があると承知している。

（委員）

五本松運動公園は第二世代交付金の交付を受ける事業で、交流人口の拡大などを目的としている。我孫子市民がスポーツを楽しむことはもちろん、市外の方

が我孫子に訪れて一緒にスポーツを楽しむことや、ふれあいキャンプ場一体的に運営することなども念頭に置いている。スポーツ以外のアクティビティも期待できる。手賀沼を見下ろす丘の上として、最大限に活用したい。

（委員）

我孫子市ふるさと大使の塙氏について、予算がないと聞いたが、全くお支払いしないのか。どのように活動しているのか。お笑いイベントではふるさと納税の席を用意し、市がその予算を出す必要があるのではないか。

（事務局）

塙氏には無償で我孫子をPRしてもらっており、予算化はしていない。名刺をお渡ししている。お笑いライブは、昨年度は市主催でふるさと納税返礼席を設けた。今年度は主催者と協議する。

（委員）

DMOは我孫子市の観光振興と商業発展に寄与するもの。アビシルベの指定管理者がこの役割を担うべきである。本年度はアンケート結果を基に、指定管理者に何を求めるか、DMOをどうしていくかを明確にすることが重要である。

（事務局）

アンケートは結果の考察を含めた調査報告書としてまとめ、今後求められるDMOの方向性も示される予定である。アンケート結果の説明機会も設ける。